

飼料用、バイオ燃料用としての利用が期待できる 水稲新品種候補「きたあおば」

国内の自給飼料の増産が求められていますが、これまで北海道で栽培できる飼料用稲品種がなかったことから、北海道向け専用品種の育成への強い要望がありました。また今後、バイオ燃料の原料として専用品種の要望も強まると考えられます。そこで北海道での栽培に適した極多収品種の育成を行いました。

☆ 技術の概要

1. 水稲「きたあおば」は、「夢あおば」と「初雫」とのF1と「ななつぼし」との交配後代から育成された系統です。
2. 育成地における出穂期は「きらら 397」並の“中生の早”、黄熟期および成熟期は「きらら 397」より遅い“晩生の早”となります（表）。
3. 育成地での多肥区における黄熟期の乾物全重、ホールクロップ TDN 収量、成熟期粗玄米収量はそれぞれ 142 kg/a、89.3 kg/a、82.5 kg/a で、「きらら 397」よりそれぞれ 17%、22%、26%高い値を示します（表）。
4. 玄米の発酵特性は北海道の多収品種「大地の星」と大きな差はなく、バイオエタノール原料としても有望です。
5. 穂ばらみ期耐冷性は“やや強”ですが、いもち病圃場抵抗性は、葉いもちが“やや弱”、穂いもちが“弱”で、耐倒伏性は「きらら 397」よりやや弱く「ななつぼし」並です（表）。

☆ 活用面での留意点

1. 耐冷性が十分ではないので、危険期の深水管理等十分な対策が必要です。
2. いもち病抵抗性は十分ではないので、適正な防除に努める必要があります。
3. 耐倒伏性は強くないので、極端な多肥栽培は避ける必要があります。
4. 奨励品種決定調査を継続し、優秀性・有用性を評価し、普及可能性や栽培可能地帯を検討する予定です。
5. 詳細は北海道農研・低コスト稲育種研究北海道サブチーム（電話 011-857-9311）へお問い合わせ下さい。

表 「きたあおば」の特性概要

系統・品種名	きたあおば	対象品種 きらら 397
出穂期(月日)	8.01	8.01
成熟期(月日)	9.27	9.20
稈長(cm)	79	69
耐倒伏性	やや弱	中
穂ばらみ期耐冷性	やや強	やや強
いもち病抵抗性	葉いもち	やや弱
	穂いもち	弱
黄熟期乾物重(kg/a)	142	122
黄熟期ホールクロップ TDN 収量(%)	89.3	73.3
粗玄米重(kg/a)	82.5	65.3

（中央農業総合研究センター 研究管理監 寺島一男）